

若者のフューチャーセンターによる地域課題の解決

1 現状と課題	<p>○県南地域の14市町村では、TX沿線で都市化が進む一方、常磐線沿線では中心市街地が空洞化している傾向が見られる。また、人口の流動や増減等により社会の結び付きの希薄化も危惧されており、これからはますます地域力が問われている。</p> <p>○他方、若者の社会課題に取り組む意識は高まっており、ヤングボランティア育成事業においては、「現代の多岐にわたる社会課題にチャレンジしてみたい」という参画意識を持つ中高生が多数存在するアンケート結果がでている。</p>
---------	--

2 期待される効果	○社会課題の解決に向けた若者の主体的な取り組みと持続的な活動を支援することで、自ら課題を発見し、課題解決に積極的に取り組む若者を育成する。
-----------	---

3 事業実践方法	<p>(1) 概要(目的)</p> <p>○若者が自ら社会課題解決に取り組む活動への支援を行う。</p> <p>○課題解決のために多様な研修を行うと同時に関係機関等との連携を深める。</p> <p>(2) 対象者</p> <p>県南地区の高等学校生徒、大学生等</p> <p>(3) 委員の構成</p>
----------	---

参加高校・大学名	
茨城県立石岡第一高等学校	茨城県立石岡商業高等学校
茨城県立土浦第一高等学校	茨城県立土浦第三高等学校
茨城県立取手第一高等学校	霞ヶ浦高等学校
常総学院高等学校	つくば秀英高等学校
筑波大学	アドバイザー

(4) 具体的な取組について

- ①会議・交流会(議)等
- ②研修・ワークショップ・講座等

《令和4年度》

期日	内容	対象者 ^{※2}
令和4年 8月21日(日)	(1) YCP(Youth Challenge Project)概要説明 自己紹介・フリートーク (2) 講話:社会課題とその見つけ方	筑波大学生 県南地域高等学校生徒 16人参加
9月4日(日)	【グループ学習】 (1)「社会課題を知る・考える」 (2) 課題の系統化・分類化	上記に同じ 13人参加
10月10日(日)	(1) 課題検討 (2) ゲストティーチャー体験談 (土浦商工会議所・きれいな虹代表)	上記に同じ 16人参加
10月23日(日)	【グループ学習】 (1) 課題の捉え方 (2) 課題解決に向けた取り組み方	上記に同じ 11人参加
12月4日(日)	【グループ学習】 (1) 具体的な解決策 (2) グループ毎に今までの学習発表・質疑	上記に同じ 12人参加

令和5年 1月7日(土)	【オンライン研修】 (1) 複数の課題整理とグルーピング	上記と同じ 14人参加
1月14日(土)	【オンライン研修】 (1) 欠席者への研修 (2) 各自の課題整理とグルーピング 【大学生研修…オンライン】 (3) 各グループの方向性確認及び大学生のファシリテートについて確認	上記と同じ 8人参加
1月15日(日)	【オンライン研修】 (1) 課題確認 (2) ターゲットの絞り方について(アドバイザー)	上記と同じ 12人参加
1月29日(日)	【オンライン研修】 (1) 課題解決に向けたチャレンジの仕方 (2) 協力・協働したい組織や企業について	上記と同じ 9人参加
2月19日(日)	【中間発表会】 (1) カウンセラーを身近に (2) LGBTQ・SOGIを知っていますか (3) 茨城の魅力発見	大学生・高校生 高等学校教諭・報道関係者 事業協力者等 29人参加
3月4日(日)	【オンライン研修】 (1) 活動スケジュールに関して共通理解を図る (2) 情報共有の方法について	筑波大学生 県南地域高等学校生徒 7人参加
3月11日(日)	【オンライン研修】 (1) 課題解決に向けたチャレンジの伝え方 (2) 発表会を想定したスケジュール作成	上記と同じ 6人参加
3月18日(土)	【オンライン研修】 (1) 課題解決に向けたチャレンジの伝え方2 (2) 発表会を想定したスケジュール作成2	上記と同じ 9人参加
3月19日(日)	活動の振り返りと発表会に向けた活動スケジュールの再確認	上記と同じ 10人参加

《令和5年度》

期日	内容	対象者
令和5年 4月16日(日)	【新年度の活動について】 (1) YCPについて、自己紹介、フリートーク (2) 各グループの課題・活動計画確認	筑波大学生 県南地域高等学校生徒 18人参加
5月21日(日)	【グループ学習】 各グループで課題解決に向けた取り組みと活動の伝え方について話し合い、まとめる作業を行う	上記と同じ 10人参加
6月18日(日)	【グループ学習】 課題解決に向けた具体的な取り組みの伝え方	上記と同じ 12人参加
7月16日(日)	【グループ学習】 課題解決に向けた具体的な取り組みの伝え方	上記と同じ 15人参加
8月6日(日)	【グループ学習】 課題解決に向けた具体的な取り組みのまとめ	上記と同じ 9人参加
8月20日(日)	【グループ学習】 課題解決に向けた具体的な取り組みのまとめ	上記と同じ 7人参加
9月17日(日)	【模擬発表会】 (1) 各グループの発表 (2) 質疑応答 (3) 発表内容の修正および改善	上記と同じ 11人参加
10月9日(月)	【発表会】 1 各グループ発表	大学生・高校生 高等学校教諭・報道関係者

	(1)「カウンセラーを身近に」グループ (2)「普通じゃないをなくしたい」グループ ○共生社会を目指す ○LGBTQ・SOGIを身近に (3)「茨城の魅力を再発見」 ○地産地消を考える～茨城のレンコン～ ○コミバスで廻る土浦の観光ルート 2 質疑応答	事業協力者等 28人参加
令和5年11月	YCP参加高校生が在籍する高校に発表会の内容及び作成物を送付	
令和6年1月	プロジェクト後の活動についてのアンケート調査	YCP参加高校生

工夫点・留意点

- ・学校行事や試験日程の違いから、全員が揃った研修や学習を行うことが難しく、「情報共有」が大きな課題となっていた。そのためオンライン研修を多用し、集合研修内容や進捗状況が伝わるよう配慮した。
- ・集合研修日程が限られており、個々に学習等を進める比重が高く、各グループにおいても連絡を取り合う必要があったため、Googleを利用し各グループ間で学習や協議がしやすいよう、改善を図った。なお、各グループのやり取りについては、常に職員が把握し情報が外部に出ることがないように十二分に注意を払った。
- ・大学生が《ZOOMによるオンライン相談日》を設けて、各自の学習状況を把握し、質問・相談を受けやすいよう努めたこともあり、各グループ学習がスムーズに進んだ。
- ・アンケートの実施については、参加高校生が在籍する高等学校に職員が出向き協力を依頼した。
- ・活動に際して協力を依頼する先については、職員が紹介したが、実際の連絡や相談等は高校生だけで行った。約束の取り付け方やプレゼンの内容・方法等大学生に相談しながら自ら行ったことも貴重な経験になった。



研修会「社会課題とは何か」



課題解決に向けたグループ学習



課題解決に向けたグループ学習



成果発表

③ 実践

期日	内容	対象者 ^{※2}
令和5年 2月19日(日)	中間発表会 各グループの課題発表及び解決に向けての取組みについての中間発表	高校生・大学生 高等学校教諭・報道関係者 事業協力者等
令和5年 10月9日(月)	発表会 各グループの課題解決に向けての活動発表	高校生・大学生 高等学校教諭・報道関係者 事業関係者等
発表後の活動	<p>○発表会後に行ったアンケート調査からは、参加した高校生が、各々当事業で学び得たことを振り返り、今後も何らかの方法で課題解決のための学習や探求を続けていこうとしていることが分かる。</p> <p>【アンケートから抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で活動内容を報告するためにさらに学習を重ねた。 ・LGBTQに関する知識を様々な世代の人が、楽しく知ることができる機会を設けたい。 ・カウンセリングに来る人を増やすために、今回実現するのは難しかった方法を実現したい。 ・SOGIについて広める活動をする。 ・考えていることをどんどん発信したい。 ・バスの利用度と運転手を増やす広告を作成したい。 ・LGBTQのことをもっと理解し、多くの方に誤解のないよう伝えていきたい。 ・将来地方公務員になり街づくりに関わりたい。大学に進学後も探求したい。 ・ポスター作製で終わってしまったので、続きを行いたい。 ・ユースチャレンジと同じように、色々な価値観を持つ人と一つの課題について話し合いたい。 ・バスを利用した地域交流を行いたい。 	

<実施にあたって(改善点・留意点等)>

課題解決チャレンジ事業としては終了したが、今後は事業に関わった生徒・学生が、その後の学習や活動に際して持つであろう疑問や課題に対して適切なサポートを継続して実施したいと考えている。また、それぞれに新たな挑戦や興味深いテーマに積極的に取り組んでいく意欲を持てるような働きかけを行うことで発展的な学びを支援していきたい。